

東松島市立矢本第二中学校

2014年 12月 12日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)

北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

(1)『東日本大震災における学校の対応-矢本第二中学校』宮城県 東日本大震災に係る教育関連記録集

<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/12490.pdf>

【場所】

海岸から約3km、定川から約300mの位置にある。

住所:宮城県東松島市赤井川前一16-1



【東日本大震災による被害】

校舎1階、講堂、武道場が津波により浸水。(1)

【震災当日の様子】

地震が起こった時、1・2年生は翌日予定していた卒業式準備の終了間際だった。揺れが収まって校庭に一次避難し、生徒の安全確認を行った。保護者への引き渡しのために校庭に待機していたが、小雪が降り始め気温も下がり始めたことから武道場へ二次避難した。午後15時10分頃、ラジオから津波襲来の緊急放送を聞き、校舎2・3階へ三次避難した。その間に地域住民も避難してきた。校庭は避難してきた車100台ほどでうめつくされた。15時40分に津波が学校に到達し、生徒・職員・避難住民は校舎へ、校舎避難ができなかった避難住民は講堂へそれぞれ避難した。校庭に駐車されていた車は水没した。外部との通信は津波襲来後は使えず、唯一、ラジオ放送局への携帯電話のメール送信だけが可能で、学校の様子と救援要請を出した。学校では生徒・職員・避難住民670名余が孤立することとなった。(1)

【調査して言えること】

海から約3km離れているが、学校の標高は0mで300mほどの距離に川も流れているため、地震の際津波を警戒する必要がある学校である。学校の周囲に、高台や高い建物が無いので、学校外の避難は難しい。また、今回の津波で浸水していない、学校の標高よりもやや高い地域からは1.8kmほど離れている。



西から見た学校(2014/11/1撮影)



校門横にある指定避難所の看板(2014/11/1撮影)